

水産海洋地域研究集会

第1回 東部瀬戸内海研究集会
「東部瀬戸内海のイカナゴ資源と環境を考える」

日 時：2018年11月21日（水） 10：30～16：30

場 所：明石市立市民会館中ホール（明石市中崎1丁目3-1）

共 催：一般社団法人水産海洋学会，地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産研究部，兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター

後 援：兵庫県漁業協同組合連合会，大阪府漁業協同組合連合会

コンビーナー：日下部敬之，大美博昭（大阪環農水研），反田 實，西川哲也（兵庫農水技総セ），高橋正知（水産機構瀬水研）

司会：反田 實（兵庫農水技総セ）

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会長） 10：30～10：35

趣旨説明：日下部敬之（大阪環農水研） 10：35～10：40

話 題

座長：西川哲也（兵庫農水技総セ）

1. 東部瀬戸内海におけるイカナゴ資源の実態とその現状 10：40～11：05
高橋正知（水産機構瀬水研）

2. ボンゴネット調査からみた大阪湾におけるイカナゴ仔魚の出現状況 11：05～11：30
大美博昭（大阪環農水研）

3. 大阪湾・播磨灘におけるイカナゴの資源動向 11：30～11：55
～資源の持続的利用を図るためには～
魚住香織（兵庫農水技総セ）
一休 憩一 11：55～12：45

座長：高橋 正知（水産機構瀬水研）

4. 備讃瀬戸のイカナゴを取り巻く環境と資源特性 12：45～13：10
赤井紀子（香川水試）

5. 播磨灘における夏眠期のイカナゴ肥満度 13：10～13：30
西川哲也（兵庫農水技総セ）

6. 大阪湾の冬春季における低次生産環境の変化について 13：30～13：55
山本圭吾（大阪環農水研）

座長：大美博昭（大阪環農水研）

7. イカナゴの新子はほんとうに痩せてきているのか？ 13：55～14：20
～大阪湾・播磨灘における漁獲対象期のイカナゴ0歳魚の肥満度の長期変化～
反田 實（兵庫農水技総セ）

8. 冬季播磨灘におけるイカナゴ胃内容物から推定された餌料環境の経年変化と近年の低次生産に関する一考察 14：20～14：45
橋口晴穂（日本海洋生物研究所）

9. 低次生態系モデルと連動したイカナゴ生活史モデル（大阪湾・播磨灘イカナゴ資源漁業モデル）の開発 14：45～15：10

市川哲也（サイエンスアンドテクノロジー）

一休 憩一 15：10～15：25

総合討論（パネルディスカッション）

座 長：日下部敬之（大阪環農水研） 15：25～16：25

閉会挨拶：高橋 正知（水産機構瀬水研） 16：25～16：30

開催趣旨：東部瀬戸内海地域において、イカナゴは船びき網漁業やコマセ網漁業などの重要な対象資源であり、生の新鮮な稚魚を甘辛い佃煮にした「くぎ煮」が季節の風物詩になるなど、地域住民の食文化の面でも欠かせないものとなっている。この資源を持続的に活用するため、当海域では従来からきめ細かい資源管理型漁業が行われてきた。にもかかわらず、当海域の本種漁獲量は近年大きく変動しながら著しく減少しており、大きな問題となっている。本研究集会は、現在進行形の調査研究も含めて、当海域のイカナゴ資源とそれを取り巻く環境に関する現在の最新情報をできるかぎり集め、情報を共有することを目的とするとともに、今後の対策の方向性についても論議したい。研究者のみならず、漁業関係者や行政担当者等からの情報提供、ご意見を期待している。